



10月23日 西川 満さん（杵臼）

主な
内容

- 農協法公布記念日にあたって
- 種馬鈴しょ施設
- 大豆施設稼働開始
- 米穀施設・倉庫最盛期
- 青年部農産物PR
- 青年部屑米集荷
- 生産者部会紹介
- 各地区の作業風景…etc

～大豆刈取作業～

JAそらち南管内では、10月上旬より大豆の収穫作業が開始されました。

全体的に平年より早く刈取り作業が進められましたが、その後の降雨により圃場に入る事が出来ず、晴れ間を見ながらの作業となりました。

農協法公布記念日にあたって

平成25年11月19日



北海道農業協同組合中央会

会長 飛田 稔章

昭和22年11月19日に農業協同組合法（農協法）が制定され、今年で66年目を迎えました。

戦後の混乱期に食料確保の必要性とあわせて農民の自主的立場を確保するため、農村の民主化が最重要課題であった時代背景の中で、農協法が施行されることも農協が設立しました。

農協は「農民の農民による農民のための組織」で、相互扶助の精神が脈々と受け継がれ、農協を拠り所としてこれまで幾多の困難な環境変化を乗り越えるとともに、組合員の経営と生活の安定並びにより良い地域社会を築くことをめざして今日に至っています。

農協法は、時代の変化に即して必要な改正がなされておりますが、農協事業・組織運営の基本法として位置づけられ、極めて重要な役割を果たしております。

農協法公布記念日を契機に、農協の社会的意義と役割について改めて組合員・役職員が心に刻み、共通認識を深めることが重要であります。

国連は、協同組合の位置付け・役割を再認識し、協同組合活動の更なる充実強化をはかるべ

く、平成24年を国際協同組合年（IYC）と定め、世界各国で関連する取組みが行われております。

協同組合組織の一員としてわたしたちは、農家組合員の営農と生活の安定向上をはかることを第一義として、地域社会全体の発展のため、その役割と機能をより一層発揮することが重要であります。

一方、世界的に食料・環境問題や社会・経済をめぐる多くの情勢変化が起きており、それに伴い、農業やJAをとりまく環境も影響を受けております。

直近では、TPP交渉問題や農業・農協等の規制改革の動きが大きな課題となっておりますが、TPPと規制改革は表裏一体の課題であり、改めて農業・JAの位置づけ並びに役割の重要性について、国民各層の理解を得る努力を行いながら、地域農業・地域社会の安定的発展につながる取組みを進める必要があります。

とりわけ、TPP交渉については、我々の声に理解を示さず半ば強引に交渉参加がなされることも、情報開示が極めて不十分な中、国民不在のもとで協議が進められておりますが、TPPが聖域なき関税撤廃のみならず、ルール改正や規制撤廃を同時に進める危険な協定であるとの認識に立ち、国会決議や自民党決議の遵守を強く求めていくとともに、不可能である場合は、直ちに交渉から脱退する必要があります。

併せて、わたしたち一人ひとりが国民生活全体に大きく影響する交渉であることを各方面に広く訴え、理解を喚起する活動を粘り強く展開していくことが重要であります。

JAグループ北海道は、昨年開催した第27回JA北海道大会において、組合員の総意のもと「持続可能な北海道農業の実現」と「次代を担う協同の実践」を決議しました。

時代の変化とともに農協の組織・事業の在り方についても、必要な見直しを行っていくことが求められますが、そのことは、「ひとりば万人のために、万人はひとりのために」との協同組合の基本理念を前提に置いた取組みであることが重要であります。

関係者総力のもとで農業環境の改善に向けた努力を傾注するとともに、若手農業者への農協理念の継承、女性農業者の農協事業への参画等を併せて行いながら、地域農業・JAを担う人材づくりをいかに進めていくかが喫緊の最重要課題であると考えます。

また、JAの対外的な役割並びに責任が高まっている昨今にあつては、必要な自己改革を進めながら、組合員をはじめ地域住民・消費者のニーズに応える事業展開とJA事業への結集による競争力強化、健全なJA経営態勢の確立、農業・JAの理解促進に向けた情報発信等を進めていくことが重要であります。

「農」は国のいしずえであり、食は命に直結するものであります。長年にわたり先代が築き上げた北海道農業並びに農業協同組合の基盤をさらに強固なものにし、後世にしっかりと継承するよう共にがんばるつもりではありませんか。

今後とも本道農業並びにJAがますます発展することを心より祈念し、農協法公布記念日にあたってのご挨拶といたします。

共選開始

種馬鈴しょ施設



次々と選別されていく種馬鈴しょ

10月1日、栗山・由仁両地区の種馬鈴しょ集出荷貯蔵施設において、種馬鈴しょの共選が開始されました。

管内では、19品種の種馬鈴しょが生産されており、栗山ではニシユタカ、由仁ではデジマから選別が行われ、コンテナからレーンに流された種馬鈴しょは、人の目により痛みや変形がないかチェックされた後、機械により規格ごとに仕分けされて、ダンボールや紙袋に詰められていきます。

今年は、定植時期の断続的な降雨やその後の干ばつの影響で小玉傾向となっておりませんが、昨年を上回る約49万袋の出荷を見込んであります。

順調に作業が進められる

大豆施設稼働開始

10月25日、由仁地区の豆類調製施設で大豆の調製作業が開始されました。

ユキシズカから調製が始まり、スズマル、トヨムスメ、ユキホマレの順に今後作業が進められます。

今年は刈取り作業が平年より早く開始されましたが、降雨の影響により圃場になかなか入ることが出来ず、刈取り作業が長引く年となりました。

また、栗山地区では11月1日より稼働予定で、種子大豆、一般大豆の順に作業が行われることとなります。



由仁地区の様子

各部から職員応援

米穀施設・倉庫最盛期



中央倉庫でのはい積み作業

平成25年産米の出荷が順調に進み、米穀乾燥調製施設や倉庫では受入作業が最盛期を迎えました。

これに伴い各部から職員の施設支援が行われ、乾燥調製施設では、フレコン・紙袋への玄米の詰め込み作業が実施されました。

また、栗山地区の中央倉庫・継立倉庫、由仁地区の三川倉庫では、30kgの紙袋で出荷された玄米が運び込まれ、トラックからシートパレットの上にはい積みする作業が行われ、次々と運ばれる玄米相手に懸命に汗を流しました。

新たな試み

青年部農産物PR



予想以上の来客者



開店前の長蛇の列

9月28日、そらち南農協青年部がJAそらち南産の農産物と青年部活動のPRを目的に、ホクレンシヨップ東苗穂店にて、来客者への新米配布と馬鈴しよと玉葱の詰め放題を実施致しました。

今年から新たに実施した活動であるものの、事前にチラシやポスターで周知したこともあり、開店前よりたくさんのお客さんが並んでおり、最後まで客足の絶えることがないまま完売することができました。

目標数量達成

青年部屑米集荷

9月29日より、そらち南農協青年部による屑米集荷事業が開始されました。

屑米集荷は、毎週日曜日に実施されており、三川倉庫にて受入れを行っております。

集荷依頼のあった生産者宅へ訪問し、60kgの袋に詰められた屑米をトラックへ積み込み、三川倉庫まで運び、その後検査を受け、部員の手によって倉庫へと搬入されていきます。

今年も、組合員皆様のご協力を得て、10月27日時点で1,000俵以上の屑米を集荷することが出来ました。



60kg袋を軽々と運ぶ青年部員たち

若さでアタック!?

青年部スポーツ大会

参加した部員と職員



白熱する試合

10月14日、空知南部地区の青年部8単組から約140名の参加者が集まり、交流と親睦を目的にスポーツ大会

会(ミニバレーボール)が、栗沢B&G海洋センターで開催されました。

そらち南農協青年部からは、JA職員の応援もあり2チームが参加し、1チームは残念ながら予選敗退となりましたが、もう1チームは決勝トーナメントまで進み4位という成績を収めました。

終了後は、岩見沢市内で懇親会が設けられ、積極的な交流・親睦が行われていました。

営農指導課のページ

「秋まき小麦の冬支度を
欠かさずお願いします」

「ゆめちから元年」がスタート
しましたが、畑の小麦は元気で
しょうか。天候不順で、播種作業
が遅れた方も見つけられました
が、間もなく冬眠に入ります。

この地域の根雪の平年は11月
6半旬ですが、今年の根雪はど
うでしょうか。

秋まき小麦の根雪前の冬支度で
大事なものは、積雪下で蔓延する雪
腐病を防ぐための薬剤散布です。



「ゆめちから」は耐雪性がやや
劣るため、無防除の畑では今年の
春も多めの発生があり、雪腐病に
よる莖数不足や生育遅延が発生
しております。

少し古いのですが、平成23年
産秋まき小麦の雪腐病防除の実
施率を調べたところ、20%を切っ
ておりました。

何とか実施率の向上をお願い
したいところですが、定期的にト
ラクターが畑に入れない状況もあ
りますので、無人ヘリコプターで
の散布依頼も一策だと思えます。

上の写真は、無人ヘリを北海道
で最初に秋まき小麦畑で飛ばした
時（平成3年11月）の写真です。

この時の調査で、無人ヘリでの
散布は、地上散布よりわずかに劣
るものの効果に問題がないこと
を確認しました。

無人ヘリでの散布は、薬剤濃度
と散布量を守ること、飛行高度
を適正に守り散布圧を維持する
ことが、薬剤の効果を発揮するポ
イントになります。

「いちごセミナー」に

参加しました

10月21・22日、道総研機構花・
野菜技術センター主催の「いちご
セミナー」に参加しました。

参加者は当JAの苺苗部会の
皆さん、事務局の管原係長と私の
6名で、全体の参加者は130名
でした。

今回のテーマは苗づくりという
ことで、ホクサン（株）、豊浦町、
清里町での苗づくりの事例に加
え、当JA苺苗部会も苗づくりと
販売の取り組み事例を紹介する
時間を頂きました。

セミナーには、農業者、JA、
自治体、大学、農業試験場、種苗
会社など多様な方々が参加され
ており、宣伝用のパンフレットを
持参して配布した効果もあつて
か、販売先の拡大につながりそ
うな話しが数件ありました。

また、二日目の現地視察では、
土建会社が始めた冬期間に苺狩
りができる観光農園（恵庭市、ス
パル農園）に驚かされました。

ハウスはそれ程大きくありま
せんが、隅々にまで気を配った管
理が行きとどき、「とちおとめ」
が元気に育ち、12月上旬の開園
を待っていました。訪ねてみたい
気になりました。

「殺菌剤は耐性菌の発生に

注意して使いましょう」

農業への耐性菌や抵抗性害虫
の発生は、病害虫の防除を困難に

するばかりか、防除効果の高い農
薬を失うことにもなります。

左の表は、日本植物病理学会
殺菌剤耐性菌研究会が昨年3月
に公表した、殺菌剤の耐性菌発
生リスクの一覧から耐性菌発生リ
スクが中以上の農薬をまとめた
ものです。

おなじみの殺菌剤が多いと思
いますが、これらは、不用意に使
用すると耐性が発達しやすい、あ
るいは既に耐性菌の分布が拡大
している農薬です。

農薬使用の基本は、適期に適
正な濃度の農薬を基準量散布す
ることと、同一農薬を連続して使
用せずローテーション散布を心掛
けることです。

今年の生産履歴の点検をお願
いします。

商品名の例	発生リスク
リドミル	高い
スターナ	中～高い
ゲッター、スミブレンド	高い
ベンレート、トップジン	高い
カンタス	中～高い
アミスター、ストロビー等	高い
カスミン、ポリオキシソ	中～高い
マイコシールド	高い
ロブラール、スミレックス	中～高い
ウィン、デラウス等	高い
パンチョTF	中～高い

（文責 技術アドバイザー 尾崎政春）

そらち南農協てん菜振興会



組合長 重田 順栄 さん

東三川地区



製糖工場を視察

そらち南農協てん菜振興会は会員数が71戸、管内で約306haのてん菜の作付けをしてあります。

てん菜の根部肥大や糖分蓄積には、冷涼で昼夜間の温度差が大きい北海道の氣候が適しております。また、畑作の輪作体系を維持する基幹作物でもあり、畑作農家の経営安定にも寄与している作物でもあります。

てん菜の農作業開始時期

は早く、まだ雪が残る3月中旬には播種作業が開始されます。1ヶ月半程度の育苗期間を経て、4月下旬には移植作業が行われ、その後防除や除草などの管理作業に入り、収穫は10月中旬頃より開始されます。

今年も既に収穫期を迎えており、平年作程度が見込まれております。

てん菜振興会では、栽培技術の向上を図るため、毎年青空教室を実施しております。また、視察研修も実施しており、道内の製糖所などを訪問し、ニーズ合った生産に努めております。

また、計画的な生産と出荷を行うため、GPSを用いて作付面積の実測や輸送会議を開催している他、出荷先である日本甜菜製糖(株)とJA・生産者の情報・技術の交換の場としての役割を担っております。

近年は、気象要因から低糖分が続いている事や、肥料費高騰などによる生産費の向上によって、作付面積は減少傾向にあります。

現在会長を行っている東三川の重田さんは「てん菜は、輪作にはなくてはならない作物。平年作以上になればお金にもなる。ここ何年間は猛暑による高温障害でひどい状況だったが、今年は夜温が低かったので期待できる」と話す。



研修の様子

結婚おめでとう

新婚さんご紹介

早坂 忠師さん (30)

のぞみさん (30)

(旧姓 井芹)

由仁町岩内

ご成婚日 平成25年3月15日

Q 出会いのきっかけ？

A バスケットボールを通じて

Q どんな家庭にしたい？

A いつもみんな笑顔でいられるような家庭

Q 農業に対する抱負

A 時代変化と共に最良を尽くしていきたい。



各地の作業風景など



金村 祐次さん (桜山)

10月23日 大豆収穫



大塚 昇さん (西三川)

10月23日 ビート収穫



吉田 庄吾さん (古山)

10月15日 大豆収穫



大場 猛彦さん (古川)

10月19日 飼料用コーン収穫

退職のご挨拶



金融部経営相談課

佐藤 好則

秋が深まり、組合員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私ごと、この度十月三十一日をもって「そらち南農業協同組合」を定年退職いたしました。

顧みますと昭和五十三年四月に旧栗山町農業協同組合に奉職以来、三十五年有余の勤務のなかで、組合員の皆様をはじめ歴代役職員及び関係機関各位の温かいご指導ご厚情によりその職責を果たすことが出来ました。心より厚く御礼申し上げます。

J A合併から五年を終えようとしていますが、T P Pや消費税増率など大変厳しい農業環境のなか、合併時点では想定出来なかつた課題も今後発生すると思われませんが、解決出来るJ Aと確信しております。

なお、私事ですが定年退職者再雇用制度において、嘱託準職員として引き続き金融部で勤務させて頂くこととなりました。

結びに、そらち南農業協同組合の益々のご発展と、組合員の皆様並びに役職員各位の一層のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。退職の挨拶と致します。

J Aからのお知らせ

農協地区別懇談会のお知らせ

平成25年度農協地区別懇談会を11月25日～28日に実施致します。

各地区の日程等の詳細につきましては、後日FAXでご案内させていただきますので、ご確認の程お願い申し上げます。

組合員の皆様におかれましては、年末に向け何かとお忙しい時期とは存じますが、万障繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

農業をリードする北海道の専門誌

ニューカントリー

北海道の農業者 必読の月刊誌

月刊誌「ニューカントリー」は昭和28年1月の創刊以来、常に新しい視点で経営発展、地域活性化に役立つ情報を提供しています。

農政や社会の動きを的確にとらえた「潮流」、経営管理や技術を総合的に検証する「技術特集」、活躍する農業者やグループを豊富なカラー写真で紹介する等、北海道農業の今を伝えます。

●平常号
900円(税込) 送料150円

●年間購読料〔増刊号込〕
18,430円(送料・税込)



— お申し込み・お問い合わせは —

株式会社 北海道協同組合通信社 管理部

☎ 060-0004 札幌市中央区北4条西13丁目

e-mail kanri@dairyman.co.jp

☎ 011(209)1003

FAX 011(209)0534

※ホームページからも雑誌・書籍の注文が可能です。http://www.dairyman.co.jp

平成25年度 米穀受入状況



平成25年10月28日現在

品 種	出荷契約数量	共計契約数量	出荷実績	うち高品位	出荷率	高品位率
ほしのゆめ	2,028 俵	1,500 俵	525.0 俵	30.0 俵	35.0%	5.7%
きらら397	108,364 俵	114,400 俵	86,944.0 俵	4,738.0 俵	76.0%	5.4%
ななつぼし	55,746 俵	51,000 俵	34,914.5 俵	11,253.0 俵	68.5%	32.2%
おぼろづき	11,773 俵	10,200 俵	6,701.5 俵		65.7%	
ゆめぴりか	69,324 俵	71,000 俵	31,716.5 俵	8,210.0 俵	44.7%	25.9%
あやひめ	880 俵	600 俵	339.5 俵		56.6%	
大地の星	1,449 俵	700 俵	0.0 俵		0.0%	
吟 風	963 俵	961 俵	1,117.5 俵	—	116.3%	—
そ の 他	1,311 俵	600 俵	421.0 俵			
計	251,838 俵	250,961 俵	162,679.5 俵	24,231.0 俵	64.82%	15.6%

*高品位率はきらら397・ななつぼし・ほしのゆめ・ゆめぴりか・酒米が対象

第10回理事会報告

日時 平成25年10月21日(月)午後
3時00分より第10回理事会在が開催
され、原案通り承認されました。

【報告事項】

経済委員会報告

農家経済対策委員会報告

農業委員会報告

農政対策

各部報告

【審議事項】

議案第1号

北海道常例検査に対する改善状
況等の報告について

議案第2号

農協懇談会の開催について

議案第3号

職員就業規則の改正について

議案第4号

平成25年度営農賦課金の徴収に
ついて

議案第5号

平成25年度大豆仮渡金について

行事予定

11月

・11日～15日

第3四半期監事監査

・22日

第11回理事会(予定)

・25日～28日

農協地区別懇談会



組合員の動き

▽正組合員戸数

883戸

▽正組合員数

3,258名

うち法人

1,502名

准組合員数

1,756名

うち団体

53名

(9月30日現在)

★おくやみ申し上げます。

亡くなった方 年齢 住所

藤島 昇吉 88歳 栗山町旭台

角 ハナ 109歳 由仁町東三川

野島 綾子 88歳 由仁町東三川

先月号の訂正

8ページ「新婚さん紹介」

澤田真也さん 23歳→28歳

澤田さとみさん 25歳→26歳

右記のように誤りがありました。訂正し関係各位に深くお詫言申し上げます。

編集後記

先日JRで札幌に行く用事があり、3年ぶりくらいに電車分々で緊張しながらに乗りつた時の事です。途中の駅から、部活動の大会を終えた男子高校生5人グループが乗車してきたのですが、全員がすぐにカバンから携帯電話(もちろんスマホ)をとり出し、真剣に画面を見て何か操作を始め、結局その5人は一言も会話をしませんでした。誰かが下車する時は手を振って言交すだけでした。電車内なのであまり大きな声で会話出来ないのは分るのですが、部活動の大会後だと、試合での良いところや悪いところなど、また学校内の事などいろいろな話が出るはずなのですが、一切その様な話が出ない。それどころか、ただ携帯電話の画面を見ているだけ……

携帯電話の発達でメールやSNSの充実、またゲームがたくさん出来るようになり、人と人の会話が希薄になり、「コミュニケーション」を携帯電話に依存してしまつた世の中だと痛感しました。やはり人間はこの世で唯一言葉を話す事が出来るので、いろいろな会話をして「コミュニケーション」をいへるべきではないかと思ひます。

企画審査課 T.N(39才)



そらち南 くみあいだより

2013 11月号 Vol. 58

■発行 2013. 11. 10(毎月1回)

〒069-1511 夕張郡栗山町中央3丁目104番地
発行/そらち南農業協同組合 管理部企画審査課
TEL/0123-72-1313 FAX/0123-72-3364
HPアドレス <http://www.ja-sorachiminami.or.jp>
メールアドレス info@ja-sorachiminami.or.jp
印刷/山東印刷